

## 思わぬ縁から趣味が仕事へ ～名寄で見つけた新たな挑戦～



阿部 真樹 (あべ まさき)

1994年11月3日生まれ、千葉県八千代市出身。大学卒業後、都内の私立中高一貫校で数学教員を務め、その後、生命保険の営業マンとして勤務。2024年5月から名寄市の地域おこし協力隊として着任。

### 【フライフィッシングガイドの修行】

コンサル会社に勤めている地元の友人の営業先が、名寄市にあるフライフィッシングのガイドとショップ(WILDLIFE FLY FISHING SHOP NAYORO)でした。その友人はオーナーの千葉貴彦氏から商談終わりに、「名寄は釣り人にとって日本一良い環境に恵まれているのに、ガイド不足という現状はもったいない。フライフィッシングガイドという仕事は後生に残しておくべき仕事だ。誰か釣りやアウトドアに興味がありそうな人はいないか」という問いかけがありました。その時に、友人が真っ先に私のことを思い浮かべてくれたおかげで千葉氏と私が知り合うことができました。概要は友人から聞いたものの詳しい話は直接聞いて欲しいとのことで、その友人も含め3人でオンラインで話す機会を作ってもらい、そこで名寄市のことやフライフィッシングのことなど今まで聞いたことのない話を聞きました。しかし私は海でのルアー釣りやエサ釣りの経験しかなく、フライフィッシングは未経験だったことも

あり、微妙な空気のままその場は終わってしまいました。私は数ヶ月たってもその話が心残りだったので、再度千葉氏に連絡を取り、実際に名寄市に伺い、直接話を聞く機会をいただきました。千葉氏からは改めてフライフィッシングの魅力やフィッシングガイドとは何かなどを聞きました。その時に地域おこし協力隊という制度のことも初めて知りました。そのような制度があることにも驚きましたが、釣りのガイドの仕事があり、それで生活している人がいることに対して、大きな関心を持ちました。もちろん釣りも好きですが、緑あふれる自然や美しい景色も好きですし、人と楽しい時間を共有することも好きな私にとっては、ガイドという仕事は天職だと感じました。名寄市の自然環境の豊かさ、フライフィッシングの魅力、そしてガイドとして地域に関われる機会があるという点に強く惹かれ、まずは3年間千葉氏の下で修行だと思い、名寄市の地域おこし協力隊に応募しました。

### 【奥深いフライフィッシング】

フライフィッシングは、道具を揃えて、いきなり現場に行ってもすぐには始められないことに衝撃を受けました。公園やショップの敷地でキャストイング\*練習をして、ある程度うまくキャストイングができるようになってから、ようやく現場に行けるようになります。また、フライ(擬似餌)を自分で作ることも驚きました。今までは、釣具屋で売っているルアーをそのまま使っていましたが、鳥の羽や獣毛などを使って作る一種の芸術作品のようなフライが自分でもうまく作れるのか不安でした。今現在も絶賛奮闘中ですが、紛い物なりに時間をかけて一生懸命作ったフライを使って魚が釣れた時の喜びというのは、ほかでは味わえない感動や快感があり、これがフライフィッシングの魅力の一つなんだと日々実感しています。キャストイングに関しても、フライタイン



名寄市のPR動画の撮影中に釣れたニジマス。YouTubeで観られます

\*キャストイング

フライを遠くまで運ぶための独特な技術・投げ方。

グ（フライを作ること）に関しても、奥が深くまだまだ学ぶことが多くあるので、地域おこし協力隊の期間中だけに限らず、任期終了後も新たな発見や学び、トライアンドエラーが続くことになりそうです。フライフィッシングの経験は、名寄市に来てから始めたので、まだお金をもらってのガイド業はしていませんが、東京から遊びに来る友人や名寄市在住の初心者などをガイドの練習だと仮定して連れて行く機会は増えていきました。協力隊3年目になる来年こそは、実際のお客様を相手にガイドすることが目標です。

### 【オフシーズン】

釣りのオフシーズンは、名寄市の「ピヤシリスキー場」の第2ゲレンデにある「ログパノラマ」という飲食店でお手伝いをしました。ここ



「ログパノラマ」にてワカサギの天ぷらを販売

のオーナーである坂口智則氏は、夏期間は石狩市浜益で民宿を経営し、冬期間になるとログパノラマのほかにも名寄市内で民泊も経営されています。ガイド業とも相性の良い民泊経営のノウハウだけでなく、これまでの経験など、貴重な話をたくさんしてくださいました。教えてもらったことを参考に、私も名寄市で良い物件を見つけ、民泊経営もしたいと思っています。ログパノラマでのお手伝い中に困ったことといえば、外国人対応です。慣れない英語で対応するのは緊張してしまい、初めのうちはうまくコミュニケーションをとることができませんでした。坂口氏からもアドバイスをいただいたおかげで徐々に慣れていき、少しずつ話せるようになりました。英会話は釣りのガイドにも必要となるスキルなので、もっと話せるように日々勉強しています。ある日、坂口氏から何かお客様に喜んでもらえるようなメニューを考えて、実際に販売しても良いというチャンスをいただきました。飲食店でのアルバイトの経験はあったものの、メニューを考えて提供した経験はなかったのでとても悩みました。そんななか、

友人に誘われて隣町の幌加内町にある朱鞠内湖<sup>しゅうまりない</sup>でのワカサギ釣りに行きました。よく目にする風景、氷に穴を空けて、そこから糸を垂らして釣るワカサギ釣りですが、釣れたワカサギを天ぷらにして食べた時のあまりの美味<sup>おい</sup>しさに感動しました。これをヒントに、ログパノラマでもワカサギの天ぷらを出してみたらどうかと思い、シーズン途中から「ワカサギの天ぷら」を販売していました。意外にも好評で、小腹を満たすおやつやビールのおつまみとして買ってくれる方が多かったです。また外国のお客様にも召し上がってもらい「good!」と言われた時は、とても嬉<sup>うれ</sup>しかったです。

初めて冬の北海道、しかも道北の名寄市で生活してみて、散々周りの人たちに注意喚起を受けながらも、水道凍結1回、雪道でのスリップ1回、スタック2回など、しっかり雪国の洗礼を浴びたことも振り返ると良い経験ができたと思います。2度目の名寄市の冬は、トラブルなく快適に暮らしてみたいです（笑）

### 【経験豊かなガイドを目指して】

まず第一優先は師匠である千葉氏のようなフライフィッシングガイドになることが目標です。しかし、現実的に地域おこし協力隊を卒業してすぐそのようになれないということが、これまでの経験で思い知らされました。フライフィッシングはそれだけ奥が深いということです。地域おこし協力隊の任期を終えても、焦らずに着々と釣りの技術の向上や経験を重ねて、少しずつ師匠に近づいていきたいです。その間フィッシングガイドだけでは、生計を立てられないと思うので、協力隊の期間中に取れる資格の取得や新たなチャレンジをしていき、任期終了後も名寄市で生活できるような準備を進めています。



名寄川でのフライキャストの様子